

授業科目名	ジェンダー社会論		
科目番号	BB11141	単位数	2.0 単位
標準履修年次	2 - 4 年次	時間割	春 AB 木 4,5
担当教員	樽川 典子		
授業形態	講義		
授業の目標と概要	ジェンダーの視点にたつて現代社会の諸相を理解する。そのためにジェンダーの基本的な理論を紹介したのち、社会関係やアイデンティティを形成のなかにみいだせるや人びとの生きづらさをとりあげ、ついで制度や組織などマクロレベルでのイシューを考える。		
授業の進行予定	第1回はじめに 第2回(1)性差をめぐる諸理論 ジェンダーの差異:自然的差異と社会化 第3回不平等をめぐる視座 第4回ジェンダー秩序 第5回(2)個人の生き方とジェンダー セクシュアリティ 第6回男性性と女性性 第7回男性性への注目 第8回(3)マクロレベルにおけるジェンダー 国家と家族 第9回メディア 第10回ジェンダーとグローバル化		
単位取得要件	1 学期中のレポート・小課題、2 学期末のレポート		
授業外の予習復習方法	第1回授業で文献リストを配布する。それを参考に専門的な文献を読む。		
教材等	毎回、資料と参考文献を紹介する。 1. R. コンネル『ジェンダー学の最前線』世界思想社 2. 多賀 太『男らしさの社会学-揺らぐ男のライフコース』		
オフィスアワー	火曜日 16:00~17:30		
学生への要望			

授業科目名	病いと死の社会学		
科目番号	BB11201	単位数	2.0 単位
標準履修年次	2 - 4 年次	時間割	春 AB 火 4,5
担当教員	奥山 敏雄		
授業形態	講義		
授業の目標と概要	病いととも生きるという経験や死を間近に意識して生きるという経験について、心理的なものとして捉えるのではなく、自己と他者と社会関係という観点から社会的に捉えたうえで、当事者が抱える苦しみに対してどのようなケアがどのような射程と限界を持つのか社会的に理解することを目標とする。		
授業の進行予定	第1回 イントロダクション 第2回 社会における死の位置づけ 第3回 患者の意思を組み込む医療 第4回 死にゆく過程の構築 第5回 全人的ケア 第6回 良き死への型どり 第7回 スピリチュアルケアと生の意味 第8回 スピリチュアルケアの2成分 第9回 まなざしの転換と生の意味 第10回 共に在ること		
単位取得要件	期末試験による。		
授業外の予習復習方法	授業で指示された参考文献を読む。		
教材等	授業のなかで適宜指示する。		
オフィスアワー	木曜日 3 時限 okuyama.toshio.gm@u.tsukuba.ac.jp		
学生への要望			

授業科目名	知識社会学		
科目番号	BB11251	単位数	2.0 単位
標準履修年次	2 - 4 年次	時間割	秋 AB 月 4,5
担当教員	葛山 泰央		
授業形態	講義		
授業の目標と概要	<p>この講義では、西欧近代社会における狂気を巡る言説の歴史について、関連する文献やテキストの分析を通して検討するなかで、人間学的想像力の現在を探究することを目的とする。</p> <p>ミシェル・フーコー (Michel Foucault 1926-1984) は『古典主義時代における狂気の歴史 (Histoire de la folie à l'âge classique)』のなかで、狂気の近代的経験の構造が成立する歴史的過程を記述することを通して、近代の精神医学による「狂人の解放」という神話を批判した。古典主義時代を特徴付けてきた監禁の衰退は、狂気の近代的経験の構造とそこに組み込まれた人間学的円環から帰結したのであり、狂気は狂気それ自体を疎外する構造を備えた認識に対して解き放たれたのである。この講義では、同書における、狂気と理性との分割=分有、古典主義時代における大いなる監禁〔一般施療院とデカルト〕と非理性の世界、理性の不安〔サドやゴヤ〕と新たなる分割=分有、近代性の時代における精神異常の形象と精神病院の誕生、狂気と人間の真実とが形作る人間学的円環、非理性という余白、営みの不在としての狂気、などの主題を再検討することにした。</p>		
授業の進行予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) イントロダクション</li> <li>(2) ルネサンス時代における非理性の経験</li> <li>(3) 古典主義時代における狂気と理性の分離=分属</li> <li>(4) 大いなる閉じ込め:デカルト的懐疑と一般施療院</li> <li>(5) 監禁収容施設と非理性の世界:サドとゴヤ</li> <li>(6) 〈理性の不安〉と新たなる分離=分属</li> <li>(7) 近代性の時代における精神異常の形象</li> <li>(8) 精神療養施設の誕生:ピネルとチューク</li> <li>(9) 近代精神医学と「狂人の解放」の神話</li> <li>(10) 狂気の近代的経験:人間学的円環とその余白</li> <li>(11) 〈営みの不在〉としての狂気</li> <li>(12) ピエール・リヴィエール事件の記録 ほか</li> </ol>		
単位取得要件	毎回の出席と小課題、中間・期末レポートを踏まえた総合評価		
授業外の前習復習方法	予習は必要としないが、授業で紹介された参考文献を必ず読んで復習すること。		
教材等	<p>ミシェル・フーコー 『古典主義時代における狂気の歴史』 (日本語訳は新潮社刊、1975 年)</p> <p>ミシェル・フーコー 『私、ピエール・リヴィエールは』 (日本語訳は河出文庫刊、2010 年)</p> <p>富永茂樹 (著) 『理性の使用——ひとはいかにして市民となるのか』 (みすず書房刊、2005 年) ほか</p>		
オフィスアワー	木曜 5 限		
学生への要望			

授業科目名	逸脱行動論-犯罪社会学 I		
科目番号	BB11271	単位数	2.0 単位
標準履修年次	2 - 4 年次	時間割	秋 AB 火 2,3
担当教員	土井 隆義		
授業形態	講義		
授業の目標と概要	犯罪現象を素材に社会学的なもの見方について理解することを目指します。とくにこの講義では少年犯罪を題材として取り上げ、その今日の動向とその背後にある社会的要因について考察を行ないます。あわせて、社会のなかで私たちが犯罪現象に接することの意味についても考えたいと思います。		
授業の進行予定	以下の構成で進めます。 第 1 回プロローグ 第 2 回少年犯罪の長期的動向 第 3 回少年犯罪の社会的要因 第 4 回共同体の抑圧力の低下 第 5 回非行グループの弱体化 第 6 回個性的な自分への焦燥感 第 7 回崩壊した非行文化の行方 第 8 回二重化された社会的排除 第 9 回二重化された承認願望 第 10 回エピローグ 各回とも口述による講義と映像資料の視聴を組み合わせる授業を進めます。		
単位取得要件	論述形式の試験によります。		
授業外の予習復習方法	各自でデータを収集し、その解釈をいろいろと試みてください。		
教材等	授業の内容を深めたい方は、下記の文献を参考にしてください。 1. 土井隆義『少年犯罪〈減少〉のパラドクス』岩波書店,2012年 その他の参考文献は、授業のなかで該当する項目ごとに紹介します。		
オフィスアワー	履修について相談のある方は下記に従ってください。 特に定めないので面会希望者は個別に連絡してください。 人文社会学系棟 A411 4078 doi at social.tsukuba.ac.jp 面会のアPOINTは電話かメールにて行なってください。		
学生への要望	ただ授業を受けて終わりにするのではなく、自分で主体的に考えるためのガイドラインとして授業を活用してください。		

授業科目名	スポーツ文化論		
科目番号	BB11301	単位数	2.0 単位
標準履修年次	2 - 4 年次	時間割	秋 AB 木 4,5
担当教員	黄 順姫		
授業形態	講義		
授業の目標と概要	スポーツ文化現象を理解・考察するための道具概念、枠組み、理論を学ぶ。スポーツ(イベント・教育・地域社会)、大衆メディア及びニューメディア、観戦・応援の若者文化の多重的な社会現象を社会的に分析する。特に、2002年のW杯以後のFIFAワールドカップ大会や、1998年長野オリンピック以後のオリンピックを題材にする。		
授業の進行予定	教科書『W杯サッカーの熱狂と遺産』(世界思想社)の本を輪読し講義と討論を行う。そして受講者同士で関心のあるテーマ(授業概要で取り上げたテーマ)でグループを作り、発表、討論を行う。第1回目で、授業全体の説明を行い、グループ作り・テーマの設定を行うため、出席が必修である。		
単位取得要件	出席、グループ発表、レポート。 1. 積極的に社会的思考を学び、自ら文献を集めて分析し、他の学生たちと討論し、最後にレポートとして纏める能力を高めたい学生は、満足度が非常に高くなる授業である。2. 自らの知的成長を望む学生の受講を期待しています。		
授業外の予習復習方法	授業外に、個人で教材の勉強、グループの人々と討論で予習・復習を行う。		
教材等	教材:黄順姫編『W杯サッカーの熱狂と遺産』(世界思想社、2003年)。参考文献:橋本純一編『スポーツ観戦学』(世界思想社、2010年)、黒田勇『メディアスポーツへの招待』(ミネルヴァ書房、2012年)		
オフィスアワー	授業中に呈示する。		
学生への要望	受講の内容や課題を把握するために欠席しないこと。やむを得ない場合は、欠席届を提出してください。懸命に取り組むことが必要ですので、スポーツ文化論を本格的に学びたい学生だけが受講すべきです。		

授業科目名	メディア・コミュニケーション論		
科目番号	BB11411	単位数	1.5 単位
標準履修年次	2・3 年次	時間割	春 ABC 月 5
担当教員	海後 宗男		
授業形態	講義		
授業の目標と概要	<p>情報はいたるところに存在します。私たちは情報の波にもまれながら、一方で様々なメディアを使い分け、また一方では、常にメディアの与える情報に影響されながら、生活しています。この高度情報化社会と呼ばれる状況は、私たちの生活にとって実際にはどのような意味を持つのでしょうか。ここでは、メディア・コミュニケーションに関係する様々な理論を学習します。</p>		
授業の進行予定	<p>メディアの提供する情報が人間や社会に与える影響を考えてきます。特に、次にあげるトピックを中心に見ていきたいと思えます</p> <p>第 1 回イントロダクション、オリエンテーション</p> <p>第 2 回情報メディアの人々への影響</p> <p>第 3 回メディアのなかの暴力の影響力 (1)</p> <p>第 4 回メディアのなかの暴力の影響力 (2)</p> <p>第 5 回映像などの人々への影響 (1)</p> <p>第 6 回映像などの人々への影響 (2)</p> <p>第 7 回メディアの世論への影響力 (1)</p> <p>第 8 回メディアの世論への影響力 (2)</p> <p>第 9 回パブリック・リレーションズ</p> <p>第 10 回メディアとリテラシー (1)</p> <p>第 11 回メディアとリテラシー (2)</p> <p>第 12 回 ICT と情報環境 (1)</p> <p>第 13 回 ICT と情報環境 (2)</p> <p>第 14 回 ICT と情報環境 (3)</p> <p>第 15 回総括</p> <p>第 16 回最終課題</p>		
単位取得要件	課題の提出状況・出席等による評価。学習態度とマナーを重視。		
授業外の前習復習方法			
教材等	<p>竹下俊郎『メディア議題設定機能』学文社</p> <p>佐々木輝美『メディアと暴力』勁草書房</p> <p>Everett M. Rogers. A history of communication study: A biographical approach. Free Press, 1994.</p> <p>Everett M. Rogers. Communication technology : the new media in society. Free Press/Collier Macmillan, 1986 (Series in communication technology and society). 《E. M. ロジャーズ著/安田寿明訳. 『コミュニケーションの科学：マルチメディア社会の基礎理論』. 共立出版, 1992.》</p>		
オフィスアワー	twitter.com/mkaigo/		
学生への要望	<p>(1) 授業中の入退室は禁止する。</p> <p>(2) オフィスアワーは事前アポにより。研究室は人社棟 B816。</p>		

授業科目名	文化・開発論		
科目番号	BB11451	単位数	2.0 単位
標準履修年次	2・3 年次	時間割	秋 AB 木 5,6
担当教員	前川 啓治		
授業形態	講義		
授業の目標と概要	1. 人類学の「文化」の概念を学ぶ。 2. 文化理解におけるフィールドワークの重要性を理解する。 3. インターフェースにおける「文化接合」「翻訳」「読み換え」「書き換え」という概念によって、文化とは動的であることを意識するようになる。		
授業の進行予定	1. 人類学の「文化」の概念を学ぶ。 2. 文化理解におけるフィールドワークの重要性を理解する。 3. インターフェースにおける「文化接合」「翻訳」「読み換え」「書き換え」という概念によって、文化とは動的であることを意識するようになる。		
単位取得要件	期末の試験によるが、授業中の課題の評価を加点する。		
授業外の子習復習方法			
教材等	前川啓治編『カルチュラル・インターフェースの人類学』新曜社 2012 年 綾部恒雄・桑山敬己編『よくわかる文化人類学』(第 2 版) ミネルヴァ書房 2010 ※音読をするのでテキストは必須		
オフィスアワー			
学生への要望			

授業科目名	メディアと情報化の社会学		
科目番号	BB11521	単位数	2.0 単位
標準履修年次	2 - 4 年次	時間割	春 AB 火 2,3
担当教員	野上 元		
授業形態	講義		
授業の目標と概要	メディアを理解することは、人々の「繋がること」や「群れること」の条件を理解することでもあります。この授業では、社会の歴史をメディア論的な視点から把握し直すことで、情報化の歴史を社会的に学び、これを通じて私たちの「現代」「現在」の理解を深めることを目指します。また講義では「社会」と「メディア」をつなぐ重要な媒介として特に「戦争」「軍事」についても触れることにしたいと思います。		
授業の進行予定	(1) イントロダクション: 「メディア (論)」とは何か? その思考法と射程 (2) 市民社会と啓蒙の諸メディア (3) 大衆社会と扇動の諸メディア (4) 消費社会と誘惑の諸メディア (5) 情報社会と再帰する諸メディア (6) まとめ		
単位取得要件	授業中に行う小課題 (30%) と期末テスト (70%) で判断する。		
授業外の予習復習方法	試験 (論述問題) は授業中、一部が事前公開されます。そのための準備がそれにあたるでしょう。授業中配布される参考文献で学んでください。		
教材等	佐藤卓己『現代メディア史』(岩波書店) がよい参考書になるでしょう。また戦争に関しては野上元・福間良明『戦争社会学ブックガイド』(創元社) が参考になると思います。		
オフィスアワー			
学生への要望			



授業科目名	社会階層論		
科目番号	BB11601	単位数	2.0 単位
標準履修年次	2 - 4 年次	時間割	春 AB 金 4,5
担当教員	森 直人		
授業形態	講義		
授業の目標と概要	格差や不平等を扱う社会階層論の——主として経済学的アプローチと対比した場合の——発想の独自性に留意しつつ、主要な理論と概念を解説したのち、社会移動、階層文化、生活構造、貧困・社会的排除といった視角にもとづく経験的研究による知見の蓄積を紹介する。その検討を通じて、社会の階層化メカニズムについての理解を深めるとともに、現代社会における格差・不平等問題を分析・考察するための基礎的知識と視角を習得する。		
授業の進行予定	<p>格差や不平等を扱う社会階層論の——主として経済学的アプローチと対比した場合の——発想の独自性に注意しつつ主要な理論と概念を解説したのち、社会移動、階層文化、生活構造、貧困・社会的排除といった種々の視角にもとづく経験的研究の紹介では、歴史的推移と国際比較の観点を重視して論じる。その後、従来の階層・階級研究では十分捉え尽くせない新しい格差・不平等や貧困・社会的排除といった現実にも言及する。</p> <p>(1) 階級・階層論の展開:マルクス主義的階級論/ウェーバー的階級論、社会移動論/機能主義的階層理論 etc.</p> <p>(2) 経験的な社会階層・社会移動研究の展開:世代間移動表分析/地位達成モデル/ログリニア (対数線形) モデル、階層帰属意識/政治意識 etc.</p> <p>(3) 階級文化をめぐる理論的考察あるいはエスノグラフィックな研究の展開:文化的再生産論/言語コード論/対抗文化的再生産論、ジェンダー/エスニシティとの関連 etc.</p> <p>(4) 比較レジーム論/制度論的パラダイムへの展開:"constant flux"/教育システム/労働市場/雇用慣行/労使関係/福祉レジーム etc.</p> <p>(5) 貧困研究/社会的排除論との接点:都市下層/生活構造/社会的排除・包摂、不安定雇用/ワーキングプア etc.</p>		
単位取得要件	授業中に課される小課題と期末試験による評価。		
授業外の予習復習方法	各回の講義と関連する文献については manaba のコースページ上に参照可能にしておくので、受講者は必ず事前に読んだうえで講義に臨むこと (学期途中にいくつか小課題を課す予定)。詳細は初回の授業時に指示する。		
教材等	<p>教科書は指定しない。関連する文献は多岐にわたるので、詳細な文献情報は授業時に配布する。さしあたりの入口として下記の文献を提示しておく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 竹ノ下弘久,2013,『現代社会学ライブラリー 13 仕事と不平等の社会学』弘文堂.</li> <li>2. 原純輔・佐藤嘉倫・大淵憲一, 2008,『社会階層と不平等』放送大学教育振興会.</li> <li>3. 岩田正美, 2008,『社会的排除:参加の欠如・不確かな帰属』有斐閣.</li> </ol>		
オフィスアワー	メールにより随時受付 人文社会学系棟 A416 mori.naoto.fw at u.tsukuba.ac.jp		
学生への要望			

授業科目名	ジャーナリズム論 I		
科目番号	BB11761	単位数	1.5 単位
標準履修年次	2 - 4 年次	時間割	春 ABC 金 4
担当教員	福原 直樹		
授業形態	講義		
授業の目標と概要	<p>全国紙で事件記者を 15 年、海外特派員を 15 年担当した教員の経験に基づき、本論 I では、「取材論」のほか、「スクープ論」や「調査報道論」などを概説、各テーマに即した時事問題も随時取り上げる。また記事の執筆も試みてもらい、「聞く力」「書く力」「新聞を読み解く力」なども養成する。講義では参加者の発信力を高めるため、質疑応答形式を基本とする。</p> <p>教員は事件記者としては、警視庁などで汚職や組織暴力などを担当したほか、特派員としてはジュネーブでスイス政治や国連機関、ブリュッセルで欧州連合 (EU)、北大西洋条約機構 (NATO) などを担当。またパリで欧州政治のほか、フランスやスペイン、ポルトガルの現状を見た。この間中東、旧ユーゴ、アフリカ各国などでの戦場取材も数多く経験している。</p>		
授業の進行予定	<p>下記のテーマは順不同。重要な時事問題が起きた場合は、それに即してテーマの内容や順番を切り替える場合がある。</p> <p>(1) テーマ 1. 授業の概要説明と初歩的实践 「モノを見る眼」とは何かを考える契機として、架空の事件・事故を設定し、その記事の執筆を試みてもらう。同時に新聞記事の様々なスタイル (テーマ・各面ごとの書き分け方) も概説する。</p> <p>(2) テーマ 2. 取材論 1 「人間関係の作り方」や「情報の引き出し方」のほか、「社会通念上許されない取材」など、「取材とは何か」についての基本論を具体例に即し概説する。</p> <p>(3) テーマ 3. 取材論 2 国内外の具体的事例に即して「取材源の保護/秘匿」について考えていく。その際、内部告発をめぐる問題や報道被害 (いわゆるメディアスクラム問題) についても触れる。</p> <p>(4) テーマ 4. 特ダネ (スクープ) 論 1 特ダネ (スクープ) とは何か、なぜそれが必要かを考えるほか、特ダネに様々な種類があることなどを過去の記事 (日本語、英語) を元に概説する。</p> <p>(5) テーマ 5. 特ダネ (スクープ) 論 2 「当局の発表」の裏に隠される「真実」を知り、同じ素材を見てもなぜ新聞によって記事の中身の濃さ・薄さが出るかを見る。</p> <p>(6) テーマ 6. 調査報道論 スクープ論の続編として、特に「調査報道」の意義や実践論などを、「ウォーターゲート事件」や「旧石器ねつ造事件」などの報道を元に概説する。同時に情報公開に関する問題点についても触れる。</p> <p>(7) テーマ 7. インタビュー論 スクープ論の続編として、インタビュー (記事) の意義について考えていく。また過去の記事に触れながら、インタビューの行い方などの実践論にも触れる。</p>		
単位取得要件	レポート提出を求める予定だが、希望がある場合はテストも実施する。		
授業外の予習復習方法	受講者は恒常的に新聞・テレビ・ネットなどのニュースに目を通すこと。できれば日本の新聞 (全国・ブロック紙) を実際に購読することが望ましい。英字紙など外国紙を継続的に読みたい場合は、相談に応じる。		
教材等	教材は過去の新聞記事・放送ビデオなどを講義の際、随時配布/視聴する。参考文献としては天野勝文・橋場義之編著「新・現場から見た新聞学」(学文社) や福原直樹「黒いスイス」(新潮新書) のほか、ハルバースタム、ソールズベリー、ウッドワードなど米ジャーナリストの各著書を推薦する。詳細は講義で述べる。		
オフィスアワー	オフィスアワーは特に定めない。質問などは教員とアポイントメントをとること。		
学生への要望	受講者は恒常的に新聞・テレビ・ネットなどのニュースに目を通すこと。できれば新聞を実際に購読することが望ましい。また講義では日本語のほか、英語 (場合によっては仏語) の記事も使用するので、ある程度語学の素養があることが望ましい。		

授業科目名	ジャーナリズム論 II		
科目番号	BB11771	単位数	1.5 単位
標準履修年次	2 - 4 年次	時間割	秋 ABC 金 4
担当教員	福原 直樹		
授業形態	講義		
授業の目標と概要	<p>本論 I の応用編。I で「聞く力」「書く力」「新聞を読み説く力」や、それに基づく「モノの見方」の基本を学んだことを踏まえ、「誤報論」「戦争報道論」「海外報道の現場論」などの詳細を概説する。また「ニューメディアとオールドメディアの関係」「新聞社/テレビ局の組織概要とそれぞれの取材方法」「社説のできる過程」など、報道現場を知るうえで欠かせない各論を考える。本論 I をさらに進めた形で、過去・最近の記事(時事問題)を元に詳細なケーススタディも行うほか、実践的な記事(論説)作成も試みる。</p> <p>本論は I・II は、ジャーナリスト志望者だけを対象に行うものではなく、将来社会に出た時に役立つ「モノの見方」をいかに養うかを目的としている。I 同様、II でも授業では参加者の「発信力」を高めるために活発な質疑応答の場としたい。</p>		
授業の進行予定	<p>重要な時事問題が起きた場合は、それに即して以下のテーマの内容や順番を替える場合がある。</p> <p>(1) テーマ 1. 授業の概要説明と論説記事の作成 時事問題をテーマに、論説記事を書くことを試みる。その際、「起承転結」の原則など、わかりやすい論説記事の書き方を概説し、大手各紙の論説(社報)の書き方や、論調の違いなども分析する。</p> <p>(2) テーマ 2. 誤報論 多くの誤報・虚報事例を詳細に分析し、それがどのように発生したか/教訓は何か……などを考えていく。時間が許せばマスコミやネットなどでの誤報・虚報が過去、いかに人権を侵害してきたかも見ていきたい。</p> <p>(3) テーマ 3. 戦争報道論 教員が実際に戦場で体験した事例を中心に、エンベッド取材など戦争報道の問題点を詳しく見る。なお、教員はジャーナリストとしての戦場での行動方法や身の守り方などについて、英国で同国の元海兵隊員による訓練を受けたことがあり、授業ではこの詳細についても触れる。</p> <p>(4) テーマ 4. 海外特派員の現場論 普段は表に出ることが少ない海外特派員の現場を知る。教員の経験に基づき、「欧州連合(EU)報道」「国連報道」「各国からの政治・経済・事件報道」などの状況を概説したうえで、日本の新聞・テレビの海外報道の問題点を分析する。</p> <p>(5) テーマ 5. マスメディアの機構論 新聞社/放送局の組織概要や記事、番組の作り方を概説する。新聞各社のオピニオン面の制作過程などにも言及するほか、時間が許せばいわゆる“客観報道”の問題点なども分析したい。放送局の仕組み/番組の作り方については、学外講師の招聘も視野に入れる。</p> <p>(6) テーマ 6. ニューメディアとオールドメディア SNS の発展に対し、新聞/放送など「オールドメディア」はどう対応していくかを考える。SNS の発展で将来、新聞はなくなってしまうのか(いわゆる新聞「終焉」論は正しいのか)などを分析する一方で、SNS の問題点なども議論していく。</p> <p>(7) テーマ 7. ニュージャーナリズム論 70~80 年代「徹底的な取材で事象を克明に再現する」ことを目的とするニュージャーナリズムが一世を風靡した。本講義ではその内容や代表的なジャーナリストに触れ、ニュージャーナリズムの今日的な意義を検証する。</p> <p>(8) テーマ 8. まとめ:「実践的取材論」 教員の経験を元に、様々な状況の中で、いかに情報を収集するか(「特ダネ」をとるか)を考えていく。</p>		
単位取得要件	レポート提出を求める予定だが、希望がある場合はテストも実施する。		
授業外の予習復習方法	受講者は恒常的に新聞・テレビ・ネットなどのニュースに目を通すこと。できれば新聞を実際に購読することが望ましい。また外国紙が読めるように語学力の研鑽を続けてほしい。本学中央図書館 1 階の新聞閲覧室は、米英独仏をはじめとする外国紙の「宝庫」だということを考えてほしい。		
教材等	教材は過去の新聞記事・放送ビデオなどを講義の際、随時配布/視聴する。参考文献としては天野勝文・橋場義之編著「新・現場から見た新聞学」(学文社)や福原直樹「黒いスイス」(新潮新書)のほか、ハルバースタム、ソールズベリー、ウッドワードなど米ジャーナリストの各著書を推薦する。詳細は講義で述べる。		

オフィスアワー	オフィスアワーは特に定めない。質問などは教員とアポイントメントをとること。
学生への要望	受講者は恒常的に新聞・テレビ・ネットなどのニュースに目を通すこと。できれば新聞を実際に購読することが望ましい。また、教材では英文(場合によっては仏文)記事も多く使うので、ある程度の語学の素養があることが望ましい。本学中央図書館1階の新聞閲覧室は、米英独仏をはじめとする外国紙の「宝庫」だということを忘れないように。

授業科目名	ジャーナリズム特別演習		
科目番号	BB11772	単位数	2.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	秋 ABC 金 6; 秋 ABC 応談
担当教員	福原 直樹		
授業形態	演習		
授業の目標と概要	<p>演習ではまず、日本や米国、欧州の新聞や雑誌などの記事を分析、各記事が「どのような目的のもとに、どのような要素を入れて書かれているのか」などを見て、記事作成に関する一定のルールを抽出する(「記事構成論」)。これと並行して、ジャーナリスティックな文章作成に必要な時事問題の知識も蓄積する。この際、当然ながら時事問題の分析手法も検証する。これらを踏まえ、文章力養成では、参加者に論説記事、一般記事、作文、エッセイ、論文などを書き続けてもらい、その結果を元に議論を進める。文章の指導・添削などは、教員だけではなく、熟練ジャーナリストの招聘も視野に入れ、多角的に行っていく。</p> <p>本演習の目的は、あくまで「達意の文章」の書き方を学ぶもので、ジャーナリスト希望者だけが対象ではない。参加者はある程度語学の知識があることが望ましいほか、新聞を最低一紙とることを勧める。</p>		
授業の進行予定	<p>以下のテーマは、教員の時事問題に対する取材状況や、参加者の希望などに基づき、変更したり、順番を入れ替える可能性がある。</p> <p>(1) テーマ 1. 演習概要 前半は各種の記事分析と「記事構成論」の理解、後半は文章作成力の養成の実践の場とすることなど、参加者に演習の大まかな進め方を理解してもらおう。これに加え、参加にあたっての「エントリーシート」を作成してもらおう場合がある。</p> <p>(2) テーマ 2. 記事構成論 1 新聞を教材に、政治、外信、経済、オピニオン、社会など各面の記事の書き方の違いを分析するほか、新聞と他のメディア(例えば雑誌やテレビ)との記事の違いも考える。最終的には、参加者に新聞の各面ごとの記事を実際に書き分けてもらう。</p> <p>(3) テーマ 3. 記事構成論 2 日本の新聞と、国外(主に欧米)の新聞の記事の書き方の違いを具体的に分析。読者に「いかにニュースを伝えるか」について、内外の新聞の手法の違いを実際に見る。このうえで例えば「ル・モンド」の論説委員になった場合と、「毎日新聞」の論説委員になった場合を考え、それぞれの立場で、それぞれの文章のスタイルを元に記事を書いてもらう。</p> <p>(4) テーマ 4. 時事問題分析 教員がテーマとして与える時事問題について、まず発表者がそれを多角的に分析。その後、参加者全員にその時事問題に関する「論説記事」を書いてもらう。同時に、参加者には新聞を継続的に読み、時事問題についての理解を深めることを求めていく。</p> <p>(5) テーマ 5. 作文論 1 作文・エッセイ、論文などを書く上での基本の1つは、あるテーマを与えられた際、いわゆる「起承転結」をどう展開し、読み手にわかり易く自分の考えを伝えていくかにある。その基本を、実際に文章を書いてもらい、学んでいく。</p> <p>(6) テーマ 6. 作文論 2 あるテーマを与えられた時に、いかに自分の経験をもとに、自分という人間を相手にわからせるか。そしていかに相手の共感を得るか。それらは作文・エッセイを書く上での醍醐味であるとともに、最も難しいタスクの一つだ。「自分史」を再度、分析したうえで、「自分の面白さ」をいかに相手に伝えるかを考えるとともに、実践的な作文・エッセイの書き方を学ぶ。</p> <p>(7) テーマ 7. いわゆる「論文」論 就職試験など、一般社会では「作文」ではなく「論文」を求められる場合もある。だがそれは学術的な「論文」ではない。1 一般社会で求められる「論文」とは何か 2 それは、一般社会で求められる「作文」とはどう違うか.....などを、具体例に即し解説。無論、実際に「論文」の執筆も行う。</p>		
単位取得要件	本演習は文章力養成が目的であるため、参加者は特段の事情がない限り、毎回出席することが求められる。また評価は、参加者がほぼ毎回提出することになる様々の原稿を元に行う。		
授業外の予習復習方法			
教材等	教材は主に日本の新聞記事。随時、英語圏、フランス語圏などで発行される高級紙の記事も併用する。(演習時に配布)。参考図書は演習の際、列挙する。		
オフィスアワー	教員と電話でアポイントメントをとること。		
学生への要望	<p>1. 過去、出席率が高い参加者は、確実に作文などの実力が向上した。毎回の出席を心がけてほしい。</p> <p>2. 参加者には恒常的に新聞、テレビ、ラジオなどのニュースに気を配るよう求めるほか、できれば実際に新聞を購読することを勧める。</p> <p>3. 参加者はある程度の語学の素養があること。</p>		

授業科目名	情報文化概論 I		
科目番号	BB11781	単位数	1.5 単位
標準履修年次	1・2 年次	時間割	春 ABC 水 1
担当教員	仲田 誠		
授業形態	講義		
授業の目標と概要	<p>マス・コミュニケーション理論の基礎について学習する。大衆文化論についてもとりあげる。ビデオ資料なども使用して多方向から学習をすすめる。CM, 映画, 漫画, 音楽などもとりあげ, そこにどのような価値観や意味が表現されているか, 「物語論」や想像力, メディア産業論の視点から考える。</p> <p>情報文化概論 I では, メディア研究・情報社会論の基礎を学ぶと同時に, 「想像力」, 「物語論」, 「存在論的フレーム」という従来のメディア論・情報社会論では欠けていた議論, 視点について補足し, メディアや情報通信技術の影響力を根源的な部分から問い直す。具体的には, 以下のようなアポリア・問題を考えながら, メディア・情報通信技術の影響力について深層の部分から考える。1) テレビや映画のロケ地へ行って, ドラマや映画の登場人物がした行動をそのまま真似したくなる気持ち (ハンカチをプラットホームの手摺りに結びつけるなど)。2) 映画やテレビドラマの登場人物が虚構の存在でしかないとわかっていても, 彼らが死んだり挫折したりすると, 自分も深い喪失感を感じることもある。3) CM が CM であり, それが宣伝であるとわかっていても, CM 的おとぎ話に影響されて商品を買ってしまう。4) 自分が直接体験したことを, ブログであらためて表現し直し, 自分を他者の目で見ないと気が済まない「間接体験化」への衝動。5) 携帯電話で親しい人と話したり, 深夜に長電話したりしている時に, もう一人の自分が自分の行為を傍らで見守っているように感じることもある。こうした問題・現象は, 「事実」や「客観的真理」を重視する科学的図式や, 「象徴的意味の世界を事物的因果論でおきかえる存在者 (死んだ事物) の視点 (ハイデガー)」では説明できないものである。従来のメディア・情報研究において欠けていた「想像力」, 「物語論」, 「解釈学・存在論的フレーム」という視点が必要とされるのである。細かい授業内容は, 以下のような題材をとりあげる予定。～「ER のイメージ」, 「湾岸戦争の意味」, 「ニュースと想像力」, 「映画やドラマで話題になった場所へ行ってみたいくなる心理」, 「物語的想像力と CM, 歌, マンガ」, 「統合失調症・失認症患者と想像力の喪失」。前期の授業の中でとりあげる「想像力」の問題は, 情報文化概論 B の主要なテーマである情報社会論の問題について考える上でも重要な視点である。授業内容: ビデオを見たり, 調査データを紹介したり, 文献の内容を紹介したりして, さまざまな方向から学習する。可能なら, メディアやメディア文化について簡単な調査 (「なぜ若者は CD を買うか」, 「メディアが提示する若者像と現実の若者像のズレ」, 「価値観とメディア評価」, 「歌や歌手の意味」など) を行いたい。一昨年実施した調査ではポピュラーソングと人々の価値観との関連などについて非常に興味深いデータが得られた。概論なので, 履修者にはデータの収集アンケートに答えてもらう) 等に協力してもらって, データの分析は授業担当者 (仲田) が行う。毎回なんらかのかたちで, 映画やビデオを見る予定である。講義をきき, 映画を見, データをながめ, 全ての感覚や感性・知性を動員しながら問題を考える。</p> <p>教科書: 『メディアと異界』, 仲田誠, 砂書房</p>		

授業の進行予定	
単位取得要件	試験・出席・レポート等による総合評価
授業外の予習復習方法	教科書:『メディアと異界』、仲田誠、砂書房 および教科書で紹介されている参考文献にできるかぎり目を通すこと
教材等	以下のテキスト (仲田誠) を使用するので各自入手しておいてください。 教科書:『メディアと異界』、仲田誠、砂書房
オフィスアワー	
学生への要望	

授業科目名	情報文化概論 II		
科目番号	BB11791	単位数	1.5 単位
標準履修年次	1・2 年次	時間割	秋 ABC 水 1
担当教員	仲田 誠		
授業形態	講義		
授業の目標と概要	<p>情報社会論の背後にある世界観、人生観についてとりあげ、多メディア社会・情報社会の中で私たちがどのように生きていくべきか考える。あわせて、日本的価値観、社会観、人生観についてとりあげ、情報化と日本的価値観の関係について考えながら、今後日本社会の進むべき方向について考える。</p> <p>情報文化概論 II では、情報文化概論 I の内容を踏まえつつ、多メディア社会・情報社会でどのような意味やメディア・情報社会に関する言説、コミュニケーションの内容が創造(社会学的に言うところ「構築」)されてきたのかいくつかの異なる視点から複合的に考える。具体的には次のような問題がとりあげられる。1) 科学的・技術的視点。「情報」という概念や「情報社会」に関するさまざまな言説が、「技術決定論・還元論的世界観」によってどのように作りだされてきたか。「アメリカ的社会科学(ベルなど)」、「歴史・政治・経済的状況(冷戦構造など)」がこれとどう連動してきたのか。モダンとポストモダンの競合・妥協。情報社会に関する言説では、たとえば、「理想的な個人の生き方」に関しても、「合理的、自律的、中心がある、安定している」個人像を重視するモダンの図式と「主体の再構築、文化的多様性(生き方の多様性、安定性より差異)、脱合理性」を重視するポストモダン型図式が競合している。映画という「モダン」なメディアが「存在論的視点」(たとえば、文学などの「表現形式」は、人間の直接的経験を間接的で「遠いもの」にし、それがかえって人間の意識の深さを生みだすというガダマーの視点)と深く関わりながら、どのように、人間や社会、世界に関する意味を創造してきたのか。その点を、とくに、日本映画をとりあげながら考える。戦中、戦後の日本映画の主要なモチーフである「苦しみや悲しみを共有する私たち」という視点が、インターネットのバーチャルな世界の中にも持ち込まれているという問題についても考える。後半は、1 で学んだことをもとに、「情報社会論」がどのような時代背景・思想・価値観によって構築されたかを確認しながら、「想像力」、「物語論」、「物語(ブログでの自分語り、日本的世間意識などを含む)を通じての意味の共有」という観点からメディア社会・情報社会を新たに読み解いていく。物語は想像力と関係し、知性はもっていても、心や感情をもたない人工知能には(物語は)解読不可能である。この点から、情報社会の矛盾や可能性に深く入りこんでいく。以上に引き続き次の内容をとりあげる。情報社会におけるプライバシーの問題や、人間関係(ブログや SNS を通じての人間関係)の問題を、日本や中国などのアジアと欧米諸国との間での情報倫理の考え方の違いと関連させながらとらえ、情報情報社会における倫理やモラルの問題について理解していく。この問題は、「人と人のつながり」がどのようなイメージ、「物語」によって可能になっているかという問題とも深く関わるということを考えていく。また、近年欧米で研究がさかんになっている「ロボット倫理」の問題もとりあげる。ロボットに老人の介護をさせたり、幼児の世話をさせたりすることは、倫理的・モラル的にどのような意味をもつかを考える。</p> <p>2014 年度は「ゲームの世界のAvatarとそれを操作する人間の身体図式の融合」、「ゴムの手が人間の身体の一部であると感じられる」、「聖地巡礼のリアリティ」、「バーチャルな世界での映像体験が現実の世界の身体に与える影響(幻影肢痛)」の問題などもとりあげ、モノの中に人間の想像力や価値観、文化などがどのように入り込んでいるかについて考える。新たな人工知能研究、ロボット研究、認知科学の知見を紹介しながら、人間の価値観、人生観、生き方、知覚、精神と情報通信技術がどのようにクロスするかについて考える。</p> <p>授業では、ほぼ毎回、ビデオや映像資料などを授業で使用する予定である。教科書:『メディアと異界』、仲田誠、砂書房</p>		



授業の進行予定	<p>1. 「世界には想像力やイメージを通じてしか見えない意味がある」といことについて考える。認知科学や精神医学の知見をとりあげながら、メディアにおける想像力の問題について理解する。</p> <p>2. 「メディアは「物語」や「表現」を通じてこの意味を見えるようにし、また新しい意味をつくりだす」ということを精神医学や哲学、社会学、心理学の考え方を紹介しながら理解する。</p> <p>3. 「このような「物語」や「表現」を通じてつかむことができる意味は科学や論理学で考えるような意味とは違う」ということを映画、CM、ドラマにおける「物語」や「表現」の特徴を紹介しながら勉強する。</p> <p>4. 「人間の知恵には、科学的な知恵と物語的な知恵の両方がある」ということを、情報社会における「情報」の考え方や人工知能に関する議論を紹介しながら説明する。</p> <p>5. 「メディアは物語的な意味を通じて、人生に大切なもの、「生きる意味」とか「他人との関わり」とか、「社会の中でのルール」とかを私たちに教えている」ということを理解する。</p> <p>6. 「情報社会論」の基礎を学ぶ。</p> <p>7. 「情報社会論」が私たちに特定の価値観を教えるものであることを理解する。この価値観とは、「知能とは明確なルールに従うことである」という考え方や、「個人の自由な競争が社会や市場を発展させる」という考え方と結びつくものである。</p> <p>8. ブログや SNS を経由しての自己表現やコミュニケーションのありかたについて学び、そうしたものの背後にある価値観について考える。自分のことを自分で理解するためには、日記などの「自己表現」の手段が必要であることなどを学ぶ。</p> <p>9. ブログや SNS における様々なルールについて学ぶ。ルールとは人間がつくりだすものであるが、一度ルールをつくると、このルールが人間を逆に支配するようになることを SNS やゲームなどを例にあげながら考える。</p> <p>10. 「物語」のルール、「表現」のルール、ブログや SNS のルールの共通点、相違点について考える。</p> <p>11. 日本的な人間関係のルールと情報社会におけるコミュニケーション、情報倫理のありかたとの関連性について考える。</p> <p>12. 日本と中国における人間関係のルールの共通点、相違点(面子など)について考える。</p> <p>13. 12 で考えたことをもとに情報社会の倫理について考える。プライバシー観の違いについて考える。存在論という視点から情報社会の倫理について考える。</p> <p>今年度は昨年度と同様に、人工知能論、ロボット研究、ロボット倫理研究の最新の知見(知能や行動様式の創発など)を紹介し、新たな情報社会研究の創発、日本社会の変革(あたらな知恵、組織、文化、価値の創発)の可能性について考えていく。また、東北・北関東での地震被害、福島での原発事故といった状況を受け、担当教員が過去におこなった災害観研究、原子力利用意識調査の知見についても紹介する。</p>
単位取得要件	試験・出席等による総合評価
授業外の予習復習方法	<p>以下のテキスト(仲田誠)を使用するので各自入手しておいてください。</p> <p>教科書:『メディアと異界』、仲田誠、砂書房</p> <p>教科書や教科書で紹介されている文献になるべく目を通すこと。</p>
教材等	<p>以下のテキスト(仲田誠)を使用するので各自入手しておいてください。</p> <p>教科書:『メディアと異界』、仲田誠、砂書房</p>
オフィスアワー	
学生への要望	

授業科目名	ジェンダーと刑法		
科目番号	BB11801	単位数	2.0 単位
標準履修年次	2 - 4 年次	時間割	秋 AB 火 5,6
担当教員	岡上 雅美, 樽川 典子		
授業形態	講義		
授業の目標と概要	<p>ジェンダーの視点から、犯罪現象およびそれに対する法規制の問題を考察する。社会で現実に行われている事象について、法的視点や社会学の視点から知識を得ることを前提とし、ただ授業を聴くだけでなく、自分の力で考察を加えることができるようになることを授業の目的とする。</p> <p>これらの問題につき関心をもって取り組んでもらいたい。法学・社会学の知識を予め備えていることは受講要件ではないので、これらの基礎知識をあらかじめもってなくても、授業に参加することができる。</p>		
授業の進行予定	<p>各テーマの前週に、問題の所在や法制度に関する解説を行い、参加者に課題を提示する。そこで、予習として、各人で課題について調べたり、自分の意見を考えたりするなどの準備を行うこととし、各回には、課題その他についてのディスカッションを行うという、ゼミに準じた形で授業を進めてゆく。</p> <p>初回の授業でこれらについて説明するので、必ず出席してください。</p> <p>第1 講ガイダンス/イントロダクション:ジェンダーとは何か</p> <p>第2 講ドメスティック・バイオレンス</p> <p>第3 講法と家庭 (児童虐待、チャイルドポルノを含む)</p> <p>第4 講強姦罪 1</p> <p>第5 講強姦罪 2</p> <p>第6 講ストーカー犯罪</p> <p>第7 講売買春</p> <p>第8 講わいせつの罪とポルノグラフィー</p> <p>第9 講リプロダクティブ・ライツと墮胎罪</p> <p>第10 講女性犯罪</p>		
単位取得要件	平常点による。		
授業外の予習復習方法	新聞やインターネットを駆使して、関心をもってジェンダー問題を考察すること。		
教材等	各回の予習用に、教材を配布する。		
オフィスアワー			
学生への要望			

授業科目名	スポーツ社会学		
科目番号	BB11811	単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	秋 AB 月 4; 秋 AB 火 3
担当教員	清水 諭, 松村 和則		
授業形態	講義		
授業の目標と概要	<p>1. 現代社会におけるスポーツの位置や意味を大衆消費社会やメディアとの関わりから述べることができる。</p> <p>2. 人種、ジェンダー、ナショナリティ、セクシュアリティ、メディアリテラシー、環境問題など社会学の基礎的な用語を理解することができる。</p> <p>3. 社会的に構築される「スポーツ」のイメージや意味と社会を生きる人々との生活状況とをつなげて議論することができる。</p>		
授業の進行予定	<p>第 1 回スポーツイベントの現在:テレビ中継、記号</p> <p>第 2 回大衆消費社会におけるスポーツ:消費社会、欲望、身体</p> <p>第 3 回スポーツイベントの成立条件:メディア、コンテンツ、商品としてのモノ</p> <p>第 4 回都市とスポーツ:オリンピックの成立条件</p> <p>第 5 回都市・スポーツ・農村:資本、レジャー開発</p> <p>第 6 回スポーツが生み出す環境「問題」</p> <p>第 7 回スポーツからの社会運動:NPO、村で生きる人々、行政</p> <p>第 8 回スポーツからの社会運動:人種差別問題</p> <p>第 9 回スポーツからの社会運動:女性アスリート、ジェンダー、セクシュアリティ</p> <p>第 10 回スポーツイベントがもたらす社会現象:象徴性、開発、環境問題、スポーツ科学</p>		
単位取得要件	出席することが大前提です。授業中に提示された課題レポートと期末テストで評価します。		
授業外の予習復習方法			
教材等			
オフィスアワー	清水 諭 sshimizu(at)taiiku.tsukuba.ac.jp <a href="http://cafesportandbody.sakura.ne.jp/">http://cafesportandbody.sakura.ne.jp/</a> 松村 和則 matumura at taiiku.tsukuba.ac.jp		
学生への要望			

授業科目名	社会学研究法 I		
科目番号	BB11932	単位数	1.0 単位
標準履修年次	2・3 年次	時間割	春 AB 水 6
担当教員	五十嵐 泰正, 樽川 典子		
授業形態	演習		
授業の目標と概要	<p>私たちは、実証研究の文献によってさまざまな社会的事実を知る。ただし、それらは研究の最終的な果実にすぎず、そこにいたるまでには、諸段階の作業を必要とする。この授業では、その諸段階について具体的な知識と技術を習得することをめざし、社会調査実習の履修にそなえる、あるいはゼミ論文や卒業論文の執筆に必要なデータ収集・分析方法の基礎を習得する準備をおこなう。</p>		
授業の進行予定	<p>前半の質的調査編を樽川 (第 1~5 週)、後半の数量調査編を五十嵐 (第 6~10 週) が担当する。</p> <p>第 1 回社会調査の情報源と研究倫理  第 2 回インタビュー調査の設計と質問項目の準備  第 3 回インタビュー調査の実際  第 4 回資料の整理とコーディング  第 5 回分析の方向・コード・マトリックスの作成  第 6 回数量調査の基本的な考え方  第 7 回質問紙の設計 1:全体の設計と質問文の作成  第 8 回質問紙の設計 2:選択肢の作成  第 9 回データの集計と分析の基礎:クロス集計と検定  第 10 回全体のまとめ:質的調査と数量調査の関係の再考</p>		
単位取得要件	<p>授業への出席、授業内小課題、ならびに期末試験をもって評価の対象とする。  具体的には、前半の小課題を 30%、後半の小課題を 30%、期末試験を 40% の配点とする。</p>		
授業外の予習復習方法			
教材等	<p>1. 小林修一、久保田滋、西野理子、西澤晃彦『テキスト社会調査』梓出版社、2005 年  2. 佐藤郁也 2008『質的データ分析法』新曜社</p>		
オフィスアワー	水曜 5 限		
学生への要望			

授業科目名	社会学研究法 II		
科目番号	BB11942	単位数	1.0 単位
標準履修年次	2・3 年次	時間割	秋 AB 水 4
担当教員	奥山 敏雄, 葛山 泰央		
授業形態	演習		
授業の目標と概要	社会学専攻で卒論執筆予定の学生に対し、社会学的探究を進める上で必要となる社会学的文献の選び方・読み方を習得した上で、小論文の執筆を目指す。		
授業の進行予定	この授業では最初に、『リーディングス 日本の社会学』（東京大学出版会）や『社会学文献事典』（弘文堂）等を手掛かりに、卒業論文の執筆を念頭に置いた社会学的文献の選び方について講義する。続いて、社会学的探求を進める上で必要となる社会学的文献の読み方（社会的リテラシー）について、具体的な文献の講読を通して習得する。なお講読する文献としては、浅野智彦（著）『自己への物語論的接近』（勁草書房）、森真一（著）『自己コントロールの檻』（講談社）、牧野智和（著）『自己啓発の時代』（勁草書房）のほか学術雑誌掲載の論文を予定している。これらを講読することを通して、社会学的な問題設定や概念枠組みの特質を理解した上で、各自の問題関心や問題意識を社会学の言葉で表現することを習得し、小論文の執筆を目指す。		
単位取得要件	毎回の出席と各回で出されたレポート、学期末の小論文等による総合評価		
授業外の前習復習方法	授業で出された課題についてのレポートを作成する。		
教材等	授業のなかで適宜具体的に指示する。		
オフィスアワー	奥山 木曜日 3 時限 okuyama.toshio.gm@u.tsukuba.ac.jp 葛山 適宜、要アポ katsurayama.yasuo.gp@u.tsukuba.ac.jp		
学生への要望	このテーマについての参考文献として、若林幹夫（著）『社会（学）を読む』（弘文堂）を挙げておくので、開講までに熟読しておくこと。		

授業科目名	社会学研究法 III		
科目番号	BB11952	単位数	1.0 単位
標準履修年次	2・3 年次	時間割	秋 AB 水 6
担当教員	土井 隆義, 野上 元		
授業形態	演習		
授業の目標と概要	卒業論文およびレポートの執筆に必要な知識と技能を修得することを目標とします。具体的には、学生同士のディスカッションなども取り入れ、論文はなぜ、どのように書けばよいのか、構成の仕方、パラグラフライティングや執筆の手順、構成の仕方などを学びながら、各自の関心に基づいて実際に執筆をし、添削をすることなどを通じて、アカデミックライティングの諸技術を実践的に身につけることを目指します。		
授業の進行予定	野上が前半を担当し、土井が後半を担当します。 (1) 論文とは何か?どのように取り扱われるべきか?を考える。 (2) 論文執筆の全体像や実例を知る。 (3) 他人の論文を読み、批評し合う。 (4) 他者の意見を取り入れながら論文の推敲をする。		
単位取得要件	授業におけるディスカッションへの参加と課題の提出を総合的に評価します。		
授業外の予習復習方法	課題の提出が必須となるので、授業の前後で執筆案や小論文の作成が求められます。		
教材等	参考文献として以下を挙げておきます。 1. 岩崎美紀子『「知」の方法論—論文トレーニング』(岩波テキストブックスα) 2. ハワード・ベッカー『論文の技法』(講談社学術文庫) 3. 本多勝一『日本語の作文技術』(朝日文庫) 4. 藤田真文『メディアの卒論』ミネルヴァ書房 その他は授業中に適宜紹介します。		
オフィスアワー			
学生への要望	学生相互に文章を批判し合うので、精神的なタフさが必要となります。自分の書いた文章や論文を愛せるようになること、「作品」となるような文章が書けることを目指しましょう。		

授業科目名	社会学外書講読 I		
科目番号	BB11962	単位数	1.0 単位
標準履修年次	2・3 年次	時間割	春 AB 水 1
担当教員	野上 元		
授業形態	演習		
授業の目標と概要	社会学の学習・研究において最低限必要な英語表現・専門用語を習得することから始め、社会学の研究書・論文を自分で探し、読めるようになること、自分の社会学的テーマの概要を英語で示せるようになることを目指す。		
授業の進行予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の諸制度を英文表記で学ぶ</li> <li>・社会学の専門用語を英語表記で学ぶ</li> <li>・社会学の外国語文献を検索し、その英文要約で概要をつかむ。</li> <li>・研究題目およびその概要、キーワードを英語表記で表現する</li> </ul>		
単位取得要件	出席点と試験を 50% ずつ		
授業外の予習復習方法	授業中に配布される課題をしてくること		
教材等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各種”Dictionary of Sociology”(例えば Penguin Books 版)</li> <li>2. 社会学の入門書 (例えば”Sociology: A Very Short Introduction”, Oxford UP など)</li> </ol>		
オフィスアワー			
学生への要望	大学院入試レベルや留学を志す人は外書購読 II も選択すること。		

授業科目名	社会学外書講読 II		
科目番号	BB11972	単位数	1.0 単位
標準履修年次	2・3 年次	時間割	秋 AB 木 4
担当教員	樽川 典子		
授業形態	演習		
授業の目標と概要	社会学の英文文献を自ら読み進めるために必要な能力の修得を目指す。 具体的には、人の社会的な営みにかかわる社会的なトピックスについて、ジェンダー研究者や社会学者がおこなってきた諸論考をとりあげる。		
授業の進行予定	英文の文献を読み進めるさい、(1) 大意をつかむ、(2) 精読するという 2 とおりの方法がある。 (1) では意味のわからない単語にこだわらずとりあえず読み進めることが、(2) では社会学の専門用語の定訳の定義を確認することがポイントになる。 いささかの葛藤はともなうが、この 2 とおりを組み合わせて読み進める工夫をしたい。 (1) イントロダクション (2) Space and place (3) Time (4) Class (5) Race		
単位取得要件	出席、授業中の小課題、レポートによって総合的に判断する。		
授業外の予習復習方法	1. テキストは、事前に配布するので、必ず目をとおして大意の把握につとめること。 2. テキストで使用する用語には、社会学の専門用語が少なからず含まれるので、社会学小辞典などでその定訳を確認しておくこと。		
教材等	1. 初回の授業で教材リストを配布する 2. 『社会学小辞典』		
オフィスアワー	木曜日 12:00~13:30		
学生への要望			



授業科目名	卒業論文演習		
科目番号	BB11992	単位数	3.0 単位
標準履修年次	4 年次	時間割	通年 応談
担当教員	社会学主専攻全教員		
授業形態	演習		
授業の目標と概要	担当教員の指導を受けながら、卒業論文を執筆する。(平成 22 年度以降の入学者は、本科目ではなく「卒業論文演習」BB11997)を履修すること)		
授業の進行予定	社会学主専攻の学生は、卒業論文に関連するスケジュールを随時確認しておくこと。		
単位取得要件	必ず「卒業論文」(BB11998) と併せて履修すること。		
授業外の予習復習方法			
教材等			
オフィスアワー			
学生への要望			

授業科目名	卒業論文演習		
科目番号	BB11997	単位数	4.0 単位
標準履修年次	4 年次	時間割	通年 応談
担当教員	社会学主専攻全教員		
授業形態	講義、演習及び実習・実験・実技		
授業の目標と概要	担当教員の指導を受けながら、卒業論文を執筆する。質の高い卒業論文を仕上げるために必要な諸技術を習得することを目標にする。(平成 21 年度以前の入学者は、本科目ではなく「卒業論文演習」BB11992」を履修すること)		
授業の進行予定	<p>社会学主専攻の学生は、卒業論文に関連するスケジュールを随時確認しておくこと。本演習は 4 年次履修科目だが、以下に 3 年次からのスケジュールを示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 【3 年次 11 月あたま】 「卒論中間報告会」の傍聴 (4 年生が報告する卒業論文の中間発表を聞きながら、卒論についてのイメージを固めること)</li> <li>2) 【3 年次 11 月末】 「卒業論文仮題目届」の提出 (指導を希望する教員と提出 1~2 週間前に面談し、指導方針などを聞いておくこと)</li> <li>3) 【4 年次 4 月中旬】 「卒業論文の手引き」配布 (卒論の執筆要項。人社棟 A421)</li> <li>4) 【4 年次 5 月最終週】 「卒論題目届」の提出</li> <li>5) 【4 年次 11 月あたま】 「卒論中間報告会」での発表 (一人 10~15 分のプレゼンを行う)</li> <li>6) 【4 年次 1 月下旬】 卒論提出 (締切厳守) 演習の予定や形式に関しては、各教員によく聞いておくこと。</li> </ol>		
単位取得要件	卒論中間報告会で発表することが求められる。日時や場所などの詳細は後日掲示する。必ず「卒業論文」(BB11998) と併せて履修すること。		
授業外の予習復習方法			
教材等			
オフィスアワー			
学生への要望	3 年次の仮題目提出直前になって卒論のことを考え始めても遅い。主専攻を社会学に選択したときから常に卒論のことを考え、自分なりの問題意識を持って講義や演習・実習を選択して取り組まなければ完成度の高い論文は作成不可能である。指導教員はあくまでも相談相手・伴走者であり、書くのは学生自身である。準備作業・執筆作業にあたっては、何よりも主体的な態度や意識が求められる。4 年次の生活の柱として、卒論を位置づける必要がある。		

授業科目名	卒業論文		
科目番号	BB11998	単位数	6.0 単位
標準履修年次	4 年次	時間割	通年 応談
担当教員	社会学主専攻全教員		
授業形態	卒業論文・卒業研究等		
授業の目標と概要	担当教員の指導を受けながら、卒業論文を執筆する。当然のことながら、質の高い卒業論文を書き、これを合格させなければ、卒業することはできない。		
授業の進行予定			
単位取得要件	必ず「卒業論文演習 (平成 22 年度以降入学者用)BB11997」、「卒業論文演習 BB11992」(平成 21 年度以前の入学者)と併せて履修すること。		
授業外の予習復習方法			
教材等			
オフィスアワー			
学生への要望			

授業科目名	社会学演習 Ib		
科目番号	BB16142	単位数	3.0 単位
標準履修年次	2 - 4 年次	時間割	春 AB 秋 AB 火 6; 通年 応談
担当教員	野上 元		
授業形態	演習		
授業の目標と概要	様々なメディア表象を使って、われわれの現在・現代社会 (冷戦終結後~2010 年代日本) を歴史的に読み解くことは可能だろうか。この演習では、「社会批評」の視角と技法を共同で探究することを目指します。		
授業の進行予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春学期 (1): 社会批評の古典や現代社会論を題材に、特にそのメディア表象の分析手法について検討します。</li> <li>・春学期 (2): いくつかのメディア表象を共同で検討し、現代社会を論じるための論点のありかを探します。</li> <li>・秋学期: ゼミ論に向けて、各自がそれぞれ何らかのメディア表象を採り上げ、現代社会について批評的に論じて貰います。</li> </ul>		
単位取得要件	ゼミの参加人数にもよるけれども、春学期は特に毎回延長が予想されます。また、必ず各自の見解が求められるゼミだと思って下さい。多様な解釈が示されることそれ自体が訓練として必要だからです。		
授業外の予習復習方法	まずは以下であげる「教材等」とそこで挙げられているメディア表象にふれ、その可能性や面白さ、そしてアヤシさを味わってみてください。		
教材等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 太田省一『紅白歌合戦と日本人』(筑摩書房)、同『社会は笑う』(青弓社)</li> <li>2. 大澤真幸『戦後の思想空間』(ちくま新書) ほか</li> <li>3. 好井裕明『ゴジラ・モスラ・原水爆-特撮映画の社会学』(せりか書房)</li> <li>4. 宇野常寛『ゼロ年代の想像力』(早川書房) ほか</li> </ol>		
オフィスアワー			
学生への要望	専門科学としての社会学は、緻密さを増す分、現代社会に関する統一的な (あるいは分かりやすく単純な) 「像」を描けなくなっています。一方で、単純な社会像を求め、「○○化する社会」といったキーワード生産型の社会批評もメディアの世界で蔓延しています。社会学を学ぶ者にとってつらい状況です。このゼミでの訓練を通じ、自分の視点に基づいてメディア表象を分析し、説得力のある解釈を積み上げてゆくことでそれぞれが何らかの社会像を構築する能力を得ること、(少し大げさですが) それを通じて人生の地図と羅針盤を得てほしいと願っています。		

授業科目名	社会学演習 IIb		
科目番号	BB16242	単位数	3.0 単位
標準履修年次	2 - 4 年次	時間割	春 AB 秋 AB 木 6; 通年 応談
担当教員	奥山 敏雄		
授業形態	演習		
授業の目標と概要	<p>様々な病いや障害とともに生きるという経験や死を間近に意識して生きるという経験は、現代の社会に特有な縁取りを与えられている。当事者の手記を読み解くことを手がかりにして、そうした経験の形づくられ方や生きることの意味の問い方に対して社会的にどのような方向づけが与えられているのか、この方向づけに対して当事者はどのような思いを持つのかを分析する。分析を通じて、この社会で病いや障害とともに生きることや死にゆくことの問題について、社会的に考えることを学ぶ。</p>		
授業の進行予定	<p>(1) 春学期では、病いや障害とともに生きるという経験や死を間近に意識して生きるという経験について分析した先行研究についていくつかの文献を輪読し、社会的な問いの設定や分析視角、分析方法について学ぶ。</p> <p>(2) 夏休みに、各自の関心にしたがって当事者の手記を収集し、社会的な分析を試み、ゼミ論に向けた最初の草稿を作成する。社会学の先行研究を読み、自身の関心を具体化し、それにそって適切な手記を収集し、実際に分析してみるという夏休みの作業は、ゼミ論を作成するにあたってきわめて重要なので注意が必要。</p> <p>(3) 秋学期では、夏休みに作成したゼミ論草稿の報告と討論を通じて、社会的な問いの設定、分析、得られた知見の位置づけなどを明確にするよう、ゼミ論の作成指導を行う。また、必要に おうじて先行研究の文献講読も行う。</p>		
単位取得要件	授業への出席、課題の報告、質疑応答への参加、夏休みのゼミ論草稿、年度末のゼミ論を総合的に評価する。		
授業外の予習復習方法	共通文献の講読、および各自のゼミ論のテーマに関する文献講読など。		
教材等	授業のなかで適宜指示する。		
オフィスアワー	木曜日 3 時限 okuyama.toshio.gm@u.tsukuba.ac.jp		
学生への要望	講義科目「病いと死の社会学」(2014 年度春 AB) を履修することが望ましい。		

授業科目名	社会学演習 IIIb		
科目番号	BB16342	単位数	3.0 単位
標準履修年次	2 - 4 年次	時間割	春 AB 秋 AB 月 6; 通年 応談
担当教員	葛山 泰央		
授業形態	演習		
授業の目標と概要	<p>この授業では、言葉と物の織り成す「秩序」としての〈文書館(アルシーヴ)〉が提起する様々な問題を、文献や事例から多角的に検討することを目的とする。</p> <p>文書館とは何か。図書館が一般の書籍類をも含む、各種の出版刊行物を所蔵する施設を指すならば、文書館とは、行政文書や事務文書の収集・保存・公開を目的とする施設を指している。前者が知の輝かしい集蔵庫であるならば、後者は知の痕跡や残骸からなる薄暗い集蔵庫であると言えるだろう。</p> <p>とはいえ、その薄暗さが解き放つ独特の魅力もまた存在する。ミシェル・フーコー (Michel Foucault 1926-1984) は、知の言説実践を批判的に解読する装置としての〈集蔵体=文書館〉の機能に着目し、それを〈考古学的=文書学的〉歴史記述の可能性の条件に据えた。狂気の歴史や臨床医学の歴史や人間諸科学の歴史、さらには監獄の歴史やセクシュアリテの歴史を巡るその一連の仕事は、私たちの〈文書館〉を記述すること、私たちの知の余白をなす、あの灰色の領域を探索することから生み出された。この意味での〈文書館〉を、歴史社会学の方法概念として捉え返し、「汚辱に塗れた人々の生」のような未完の仕事に秘められた潜在力を引き出す一方で、学問の歴史や図書館の歴史、百科事典の歴史や各種の辞典類の歴史といった仕事を構想することもできるだろう。それはまた、書誌学や図書館学、書物の社会史や読書の社会史などの成果を踏まえつつ、知と身体と言語の交錯する〈文書空間〉の歴史社会学とも呼ぶべき問題領域を切り拓く作業にも繋がるはずである。</p>		
授業の進行予定	文献の講読や関連する事例についての報告と討論を中心に進めたい。		
単位取得要件	毎回の出席と小課題、各学期の報告と討論、ゼミ論文を踏まえた総合評価		
授業外の予習復習方法	教材や授業で紹介された参考文献を読んで必ず予習・復習すること。		
教材等	ミシェル・フーコー『言葉と物——人間諸科学の考古学』(日本語訳は新潮社から) ほか		
オフィスアワー	木曜 5 限		
学生への要望			

授業科目名	社会学演習 Vb		
科目番号	BB16542	単位数	3.0 単位
標準履修年次	2 - 4 年次	時間割	春 AB 秋 AB 火 6; 通年 応談
担当教員	黄 順姫		
授業形態	演習		
授業の目標と概要	社会学の本を輪読し、各自が、教育、スポーツ、若者文化の領域から、関心のあるテーマを設定し、ゼミで発表、討論を行う。授業の目標は、教育社会学、スポーツ社会学、文化社会学のなかで、自らがテーマを設定し、社会的に考察し、まとめていく能力を育成する。		
授業の進行予定	春学期に本を輪読しながら、ゼミで討論する。各自のテーマを設定して、発表及び討論を行う。秋学期の最後にゼミ論を提出する。昨年度からのゼミ生は、引き続き同じテーマを選び、異なる視点から取り組むことにより、社会学的研究を深めることができる。		
単位取得要件	出席、ゼミでの発表、ゼミ論作成。		
授業外の予習復習方法	ゼミ以外に、関連文献を参考にして、個人の研究を深める。また、必要であれば、教育、スポーツ、若者文化のテーマ別にグループを作り、ゼミ生同士で議論を深めることができる。		
教材等	1. 渡邊秀樹他編『勉強と居場所—学校と家族の日韓比較』(勁草書房、2013 年) 2. 北澤毅編『「教育」を社会学する』(学文社、2011 年) 教材の順で輪読していく。第 1 回の授業までに、1. のテキストを用意しておく。		
オフィスアワー	授業中に呈示する。		
学生への要望	卒論の学生はゼミにも参加することが望ましい。昨年度からのゼミ生は、将来の卒論を念頭に、同様のテーマを深めていくほうが望ましい。		

授業科目名	社会学演習 VIb		
科目番号	BB16642	単位数	3.0 単位
標準履修年次	2 - 4 年次	時間割	春 AB 秋 AB 木 6; 通年 応談
担当教員	樽川 典子		
授業形態	演習		
授業の目標と概要	2013 年度に開講した社会調査実習では子育て支援のユーザーをテーマにしたので、この演習では子育て支援サービスの提供者に注目して、理論的な理解のしかたを学ぶとともに実証的に考えいく。近年の子育て支援は、供給者が多様化し多角的な状況つつあることに配慮したい。		
授業の進行予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春学期 1~3 回:イントロダクションおよびレジュメ作成法</li> <li>・春学期 4~10:文献の輪読し、報告者の発表にもとづいてディスカッションをおこなう</li> <li>・春学期 C:実践現場の見学</li> <li>・秋学期 A:ケアに関するトピックスから各自関心のあるテーマを選定して、関連する文献の報告をし、それにもとづいてディスカッションをおこなう</li> <li>・秋学期 B:ゼミ論文の構想をまとめて、その内容を各自が発表をおこなう。</li> <li>・秋学期 C:ゼミ論の執筆</li> </ul>		
単位取得要件	出席、ゼミでの報告、討論への参加度、ゼミ論文提出		
授業外の予習復習方法			
教材等			
オフィスアワー	火曜日 4 時限		
学生への要望	「知識を得る」から「考え方を習得する」ことへの転換をめざし、いろいろな思考実験をしてほしい。		



授業科目名	社会学演習 VIIb		
科目番号	BB16742	単位数	3.0 単位
標準履修年次	2 - 4 年次	時間割	春 AB 秋 AB 火 6; 通年 応談
担当教員	土井 隆義		
授業形態	演習		
授業の目標と概要	<p>現在の日本人の生活満足度は上昇しています。内閣府が行なっている「国民生活に関する世論調査」によると、現在の生活を満足と感じている人の割合は、今年 6 月の最新データで 71% に達しているのです。1995 年の 72% に続いて史上 2 位の高さです。このような日本人の幸福感の強さの背景には何があるのでしょうか。現在、私たちは、非常に厳しい社会状況に置かれているはずなのに、みんな幸せそうに暮らしているのはなぜでしょうか。</p> <p>そこでこの演習では、「現代の日本人の幸福感の内実を探る」を統一テーマとし、学生の皆さんと一緒に考察していきたいと思ます。いまの自分が幸福と感じているかたも、逆に不幸と感じているかたも、一緒に討論して思考を深めていきましょう。</p>		
授業の進行予定	<p>各モジュールごとに次の要領で授業を行ないます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・春 A..... 演習に参加する学生全員で共通の文献を輪読していきます。報告を担当する箇所をあらかじめ配分しておき、毎回、担当者が報告を行なった後、その内容について全員でディスカッションを行ないます。</li> <li>・春 B..... 今日の生活満足度を考える上で、学生各自が関心のある具体的なテーマについて基本的な文献の一つ取り上げて、その文献の概要と自分の意見を報告します。その後、報告された内容と意見について全員でディスカッションを行ないます。</li> <li>・秋 A..... 生活満足度をめぐる命題群の中から、学生各自が関心のあるトピックの一つを設定して、そのテーマの下で自分の考察を進めて報告にまとめます。毎回とも、担当者が自らの研究成果を報告した後、その内容について全員でディスカッションを行ないます。</li> <li>・秋 B..... ゼミ論文の構想をまとめ、その内容について各自が報告します。その後、参加者全員でディスカッションを行ない、そこで得られた意見を参考にゼミ論文を執筆します。集中..... 通常の授業時間では消化しきれない箇所については、集中授業を行ないます。</li> </ul>		
単位取得要件	平常点とゼミ論文を総合的に評価します。		
授業外の予習復習方法	各自で文献を読み込み、ディスカッションに備えてください。		
教材等	<p>最初の輪読では下記の文献を用います。</p> <p>1. エミール・デュルケーム『自殺論』中公文庫  文献は各自で用意してください。</p>		
オフィスアワー	<p>履修に関する相談は下記のとおりとします。  特に定めないので面会希望者は個別に連絡してください。  人文社会学系棟 A411 4078 doi at social.tsukuba.ac.jp  面会の約束は電話かメールで行なってください。</p>		
学生への要望	演習は学生が主体的に作り上げるものです。ぜひ活発に発言してください。		

授業科目名	社会学演習 IXb		
科目番号	BB16942	単位数	3.0 単位
標準履修年次	2 - 4 年次	時間割	春 AB 秋 AB 木 6; 通年 応談
担当教員	森 直人		
授業形態	演習		
授業の目標と概要	統計的解析手法の面で洗練の度を加える計量的階層研究とは異なる方向での階層・階級論のフロンティアを探る。その営みを通じて、学術的な文献の読みかた、文献理解を踏まえた議論のしかた、根拠にもとづいた自分の主張の論証のしかた、といった論文執筆に向けた基礎的スキルの習得を図る。		
授業の進行予定	<p>春学期は参加者全員で共通の文献を会読し、学術的な文献の読みかたを習得するとともに、ゼミが扱うテーマの全体的なイメージを共有する。それを参加者各自がそれぞれに咀嚼したうえで、春学期終了までに自分の研究テーマを設定し、先行研究の文献リストを作成する。夏季休業中にリスト中の文献を各自で読み進め、秋学期にはその文献報告あるいはゼミ論構想報告を行い、最終的なゼミ論文の執筆を目指す。</p> <p>(1) 春学期はボルタンスキー&amp;シャペロ (三浦直希他訳) 『資本主義の新たな精神 (上・下)』 (ナカニシヤ出版,2013) から何章か選んで全員で会読する。ゆっくりと、パラグラフごとの精読に努めつつ読み進める。</p> <p>(2) 春学期終了までに各自で追究する研究テーマを構想・設定し、先行研究となるべき文献のリストを作成しておく。その過程で文献の検索のしかた等を習得する。</p> <p>(3) 夏季休業中に各自で作成したリスト中の文献を読み進めながら、ゼミ論構想を練り上げていく。</p> <p>(4) 秋学期は夏季休業中に読み進めておいた文献群をもとにした文献報告またはゼミ論構想報告を各自が行い、それを踏まえたディスカッションを内容とする。</p> <p>(5) 秋学期終了後、一年間の研究成果を各自ゼミ論文 (10000~12000 字程度) として執筆・提出する。最終的にはやや分量のあるゼミ論を執筆することが到達点であるから、「このゼミでの自分の研究テーマ」を設定する必要がある。ゼミのスタート時点での問題意識はぼんやりしたものでかまわないが、授業の進行につれてそれを「自分で」明確化していくことが必要だという意識はもっておいてほしい。そのために必要な助言はいつでもするので、遠慮せずに教員に相談すること。</p>		
単位取得要件	ゼミでの報告 (15%)、議論での参加度・貢献度 (15%)、ゼミ論文 (10000~12000 字程度) の内容 (70%) で評価する。		
授業外の前習復習方法	共通文献の会読以外に、春学期中に自分の研究テーマを模索するための文献探索・リストの作成と読書が必要である。さらに夏季休業中に、自主的にその作業を進展させておくことが秋学期の報告、さらにはゼミ論執筆に向けた前提となる。自学のしかたがわからなかったり、行き詰ったときには、授業中/授業外を問わず、積極的に教員に相談・質問すること。		
教材等	<p>春学期は下記文献から第 1 章 (上巻)、第 4 章 (上巻)、第 5 章 (下巻) など、一部を選んで会読する。</p> <p>1. リュック・ボルタンスキー&amp;エヴ・シャペロ (三浦直希他訳), 2013, 『資本主義の新たな精神 (上・下)』 ナカニシヤ出版。</p>		
オフィスアワー	メールにより随時受付 人文社会学系棟 A416 mori.naoto.fw at u.tsukuba.ac.jp		
学生への要望	ゼミでの報告担当を当日キャンセルするのは (やむを得ない場合を除いて) 認めないので、体調管理も含めて注意すること。		

授業科目名	社会調査実習 IIb		
科目番号	BB19243	単位数	6.0単位
標準履修年次	2-4年次	時間割	春 AB秋 AB月 6; 通年集中
担当教員	五十嵐泰正		
授業形態	実習・実験・実技		
授業の目標と概要	新規就農、6次産業化、農産物のブランディング、市民参加型の地域農業など、現代の農業をめぐる諸課題について、おもに千葉県柏市における近郊農業の事例調査を交えながら、実践的に考える。		
授業の進行予定	<p>現在、離農者や耕作放棄地の拡大、食品安全の問題、そして更なる自由貿易化の波など、農業をめぐる環境には大きな問題が山積している。そうしたなか本演習では、構造的な高コスト体質を抱えながらも、一定の存在感をもって成立している都市近郊農業にスポットをあて、理論的・経験的に検討していく。本演習で設定する具体的な調査対象は、千葉県柏市近辺の「農」をめぐる諸実践である。2年間にわたって行われる調査プロジェクトの初年度にあたる前年度は、「ブランディング」「6次産業化」「地域と農業」「新規就農」の4つの課題群に沿う形で、講読と調査を進めていったが、今年は受講生の興味に照らし合わせながら、課題群の再編成も視野に進めていく。本実習では、まず春学期の最初に昨年度提出されたゼミ論文と聞き取り調査の記録等を、新規受講生を中心に輪読し、昨年度段階における達成を確認する。その後の春学期では、各班ごとのテーマに関連する文献を輪読し、それぞれの背景にある構造的・政策的課題について理解を深める。また、8月に柏市近辺の市民を対象とした地産農産物に対する意識調査を実施する予定なので、春学期の後半および夏合宿（7月中旬に1泊合宿を設定する予定）でその準備を進める。それらと並行し、年間を通して、柏市近辺でそれぞれのテーマに関わる生産者や流通業者（直売所、スーパー）、それらをつなぐ市民団体などの聞き取り調査を行い、各テーマを柏というローカルな場に根付いた形でじっくりと考えてゆくとともに、比較対象事例となりうる他地域にも積極的に出かけ、聞き取り調査を進める。秋学期の後半には、1年間（前年度から受講している学生に関しては2年間）に得た知見を振り返ってゼミ論文を執筆する。年度末には、このゼミ論文を、柏の農業関係者に何らかの形でプレゼンテーションを行い、研究成果をフィードバックする機会を設ける予定である。</p>		
単位取得要件	実習やゼミでの議論への貢献度と、ゼミ論文（12000字程度）から総合的に評価する。		
授業外の予習復習方法			
教材等	ここで挙げたゼミの年頭に読むもののほかに、随時 PDFファイル等で課題文献を配布する。1. 五十嵐泰正 + 「安全・安心の柏産柏消」 円卓会議『みんなで決めた「安心」のかたち』亜紀書房、2012年 2. 2012年度「社会学演習 IV」のゼミ論集		
オフィスアワー	随時。メール等で要アポイントメント。		
学生への要望	本演習のプロジェクトは、昨年度の「社会学演習 IV」から継承されているので、昨年度の受講生の参加を優先的に考えるが、今年度からの受講者も歓迎する。受講生の都合を聞きながら、週末や長期休暇、平日の夜間などにも、柏市近辺でフィールドワークをする機会が多いので、積極的に参加し、主体的に実習に貢献してほしい。また、農業を中心に、さまざまな領域で活躍している社会人と会う機会が多いので、アポイントメント取りから実際の聞き取り調査、成果のフィードバックまで、一定のコミュニケーションスキルを身につけることを強く期待する。		